

# コトバカっ!



コトバカ  
言葉家……言葉を操る専門家。言葉にバカに詳しい人。言葉にバカみたいにこだわる人。

コトのほかバカ。コトによるとバカ。コピーライターの俗称。

上から読んでも相川藍、下から読んでも相川藍。コトバカの相川藍が言葉についてコトバカルっ!

いいねーどっこい66?

インターネットが苦手な人でも、フェイスブックやツイッターなど、近年流行中のソーシャルメディアと無関係ではられない。そこから生まれた言葉が今や日常的に使われているからだ。最も普及した言葉はツイッターの「なう」と、フェイスブックの「いいねー」じゃないかな。

「いいねー」は、フェイスブックとリンクしている記事や書き込みについているボタンで、クリックするだけで肯定的な評価を多くの人と共有できる。しかし時には「この人、こんなものをいいと思ってるわけ?」と百年の恋がさめたり、さめさせてしまったりということもあるだろう。実際、米国ではゲイやレズビアンのコミュニティに「いいねー」ボタンを押したことがきっかけで、会社をクビになった人がいるというではないか。

米年版フェイスブックでは「いいねー」ボタンは「LIKE」と表示されている。GOODではないのだから、日本語版も「好き」と直訳すればよかったのと思うけど、日本語の「好き」にはLOVEの意味もあるから強すぎるかもしれない。好ましい、というほんわかしたニュアンスの「いい」が採用され、そっけなさを補うために、軽い感動や親しみを表す終助詞と感嘆符をつけて「いいねー」としたのだろう。

ネガティブな話題を共有したい場合、「いいねー」ボタンを押しづらいから「よくないねー」ボタンをつくるべきという意見もあるが、ネット上が殺伐とした空気になってしまいそっけで恐い。「だめねー」「ないねー」「げっ」「やばっ」などもよくないねー

だったら否定はせずに、もう少し曖昧な表現、たとえば「そうね」「まあね」「ふむふむ」「なるほど」「むむむ」「はん」「ふん」「へー」「ほー」あたりはどうか。などということ、最近フェイスブック上のコミュニケーションに疲れているらしい友人にしたらと話していたら、あなたのほうがフェイスブックより疲れるよって感じて「ありえない!」と軽く一喝されてしまいました。現実にはキビシイ。

相川藍 (言葉家)

あいかあい ことばか

丸の内文学賞(大賞)、朝日広告賞(最高賞)、インターネット書評コンテスト(最優秀賞)受賞。早稲田大学第一文学部卒。コピーライター。